

定款改正(案)

加筆 _____ 修正 ; _____ 削除 ; _____

現行 (2014/3/29 施行版)	改正案	備考	施行日
<p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>(名称) 第1条 この法人は、公益財団法人日本サッカー協会と称し、英文標記は Japan Football Association (略称 J F A) とする。</p> <p>(事務所) 第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。</p> <p style="text-align: center;">第2章 目的及び事業</p> <p>(目的) 第3条 この法人は、日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>(事業) 第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。 (1) 日本を代表する各年代、各カテゴリーのサッカーチームを組織し、各種競技会への参加及び代表チームが参加する競技会の開催 (2) サッカーの全日本選手権大会その他の競技会の開催 (3) サッカー選手の育成、サッカー競技の普及及びサッカーの指導者並びに審判員の育成</p>	<p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>(名称) 第1条 この法人は、公益財団法人日本サッカー協会と称し、英文標記は Japan Football Association (略称 J F A) とする。</p> <p>(事務所) 第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。</p> <p style="text-align: center;">第2章 目的及び事業</p> <p>(目的) 第3条 この法人は、日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>(事業) 第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。 (1) 日本を代表する各年代、各カテゴリーのサッカーチームを組織し、各種競技会への参加及び代表チームが参加する競技会の開催 (2) サッカーの全日本選手権大会その他の競技会の開催 (3) サッカー選手の育成、サッカー競技の普及並びにサッカーの指導者及び審判員の育成</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>	<p style="text-align: center;">2015/3</p>

<p>(4) 選手、チーム、指導者及び審判員等の登録 (5) 知的所有権の管理及び商標提供 (6) 社会貢献及び国際貢献の実施 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2. 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。</p> <p style="text-align: center;">第3章 国際サッカー連盟等への加盟 (国際サッカー連盟等への加盟)</p> <p>第5条 この法人は、日本サッカー界を代表する唯一の団体として、国際サッカー連盟(Fédération Internationale de Football Association, 略称F I F A)、アジアサッカー連盟(Asian Football Confederation, 略称A F C)及び東アジアサッカー連盟(East Asian Football Federation, 略称E A F F)に加盟する。</p> <p style="text-align: center;">第4章 加盟団体 (加盟団体)</p> <p>第6条 各都道府県におけるサッカー界を統括し、その普及振興を行い、この法人の趣旨に賛同する団体(以下「都道府県サッカー協会」という。)は、理事会及び評議員会の決議を得て、加盟団体となることができる。</p> <p>(資格喪失)</p> <p>第7条 <u>都道府県サッカー協会</u>は、次の事由によって加盟団体の資格を喪失する。</p> <p>(1) <u>都道府県サッカー協会</u>の解散</p>	<p>(4) 選手、チーム、指導者及び審判員等の登録 (5) 知的所有権の管理及び商標提供 (6) 社会貢献及び国際貢献の実施 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2. 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。</p> <p style="text-align: center;">第3章 国際サッカー連盟等への加盟 (国際サッカー連盟等への加盟)</p> <p>第5条 この法人は、日本サッカー界を代表する唯一の団体として、国際サッカー連盟(Fédération Internationale de Football Association, 略称F I F A)、アジアサッカー連盟(Asian Football Confederation, 略称A F C)及び東アジアサッカー連盟(East Asian Football Federation, 略称E A F F)に加盟する。</p> <p style="text-align: center;">第4章 加盟団体 (加盟団体)</p> <p>第6条 各都道府県におけるサッカー界を統括し、その普及振興を行い、この法人の趣旨に賛同する団体(以下「都道府県サッカー協会」という。)及び別に定める団体は、理事会及び評議員会の決議を得て、この法人の加盟団体となることができる。</p> <p>(資格喪失)</p> <p>第7条 <u>加盟団体</u>は、次の事由によって加盟団体の資格を喪失する。</p> <p>(1) 解散</p>	<p>加盟団体に都道府県サッカー協会以外を含める</p> <p style="text-align: right;">2015/3</p> <p style="text-align: right;">2015/3</p>
--	--	--

<p>(2) 除名</p> <p>(除名)</p> <p>第8条 都道府県サッカー協会が次の各号のいずれかに該当するときは、理事会及び評議員会の決議を得て、会長がこれを除名することができる。</p> <p>(1) この法人の名誉を傷つけ、又はその目的に違反する行為があったとき</p> <p>(2) 分担金を滞納したとき</p> <p>(その他)</p> <p>第9条 都道府県サッカー協会に関する事項は別に定める。</p> <p>(分担金)</p> <p>第10条 都道府県サッカー協会は、毎年別に定める分担金を納入しなければならない。</p> <p style="text-align: center;">第5章 資産及び会計</p> <p>(基本財産)</p> <p>第11条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。</p> <p>2 基本財産は、評議員会において別に定めるところにより、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。</p>	<p>(2) 除名</p> <p>(除名)</p> <p>第8条 加盟団体が次の各号のいずれかに該当するときは、理事会及び評議員会の決議を得て、会長がこれを除名することができる。</p> <p>(1) この法人の名誉を傷つけ、又はその目的に違反する行為があったとき</p> <p>(2) 当該加盟団体が都道府県サッカー協会の場合で、分担金を滞納したとき</p> <p>(その他)</p> <p>第9条 加盟団体に関する事項は別に定める。</p> <p>(分担金)</p> <p>第10条 加盟団体のうち、都道府県サッカー協会は、毎年別に定める分担金を納入しなければならない。</p> <p style="text-align: center;">第5章 資産及び会計</p> <p>(基本財産)</p> <p>第11条 この法人の目的である事業を行うために不可欠な別表の財産は、この法人の基本財産とする。</p> <p>2 基本財産は、評議員会において別に定めるところにより、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、予め理事会及び評議員会の承認を要する。</p>		<p>2015/3</p> <p>2015/3</p> <p>2015/3</p> <p>2015/3</p> <p>2015/3</p>
--	---	--	---

<p>(事業年度)</p> <p>第12条 この法人の事業年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。</p> <p>(事業計画及び収支予算)</p> <p>第13条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。</p> <p>(事業報告及び決算)</p> <p>第14条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業報告 (2) 事業報告の附属明細書 (3) 貸借対照表 (4) 損益計算書（正味財産増減計算書） (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書 (6) 財産目録 <p>(公益目的取得財産残額の算定)</p> <p>第15条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）施行規則第48条の規定に</p>	<p>(事業年度)</p> <p>第12条 この法人の事業年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。</p> <p>(事業計画及び収支予算)</p> <p>第13条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。</p> <p>(事業報告及び決算)</p> <p>第14条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第6号までの書類については承認を受けなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業報告 (2) 事業報告の附属明細書 (3) 貸借対照表 (4) 損益計算書（正味財産増減計算書） (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書 (6) 財産目録 <p>(公益目的取得財産残額の算定)</p> <p>第15条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）施行規則第48条の規定に</p>		
--	--	--	--

<p>基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定するものとする。</p> <p style="text-align: center;">第6章 評議員</p> <p>(評議員の選出)</p> <p>第16条 この法人には評議員 47名以上60名以内 を置く。</p> <p>(評議員の選任及び解任)</p> <p>第17条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。</p> <p>2. 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。</p> <p>(1) 各評議員について、次の①から⑥に該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。</p> <p>① 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族</p> <p>② 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者</p> <p>③ 当該評議員の使用人</p> <p>④ ②又は③に掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの</p> <p>⑤ ③又は④に掲げる者の配偶者</p> <p>⑥ ②から④までに掲げる者の3親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの</p> <p>(2) 他の同一の団体（公益法人を除く。）の次の①から④に該</p>	<p>基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定するものとする。</p> <p style="text-align: center;">第6章 評議員</p> <p>(評議員の選出)</p> <p>第16条 この法人には評議員 75名 を置く。</p> <p>(評議員の選任及び解任)</p> <p>第17条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。</p> <p>2. 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。</p> <p>(1) 各評議員について、次の①から⑥に該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。</p> <p>① 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族</p> <p>② 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者</p> <p>③ 当該評議員の使用人</p> <p>④ ②又は③に掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの</p> <p>⑤ ③又は④に掲げる者の配偶者</p> <p>⑥ ②から④までに掲げる者の3親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの</p> <p>(2) 他の同一の団体（公益法人を除く。）の次の①から④に該</p>	<p>評議員数の 変更</p>	<p>2015/3</p>
---	--	---------------------	---------------

<p>当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。</p> <p>① 理事</p> <p>② 使用人</p> <p>③ 当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団 体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、そ の代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者</p> <p>④ 次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方 公共団体の議会の議員を除く。）である者</p> <p>イ 国の機関</p> <p>ロ 地方公共団体</p> <p>ハ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行 政法人</p> <p>ニ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法 人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人</p> <p>ホ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独 立行政法人</p> <p>ヘ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって 設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15 号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人 （特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し 行政官庁の認可を要する法人をいう。）</p> <p>（評議員の任期）</p> <p>第18条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のう ち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。</p> <p>2. 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評 議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとす</p>	<p>当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えない ものであること。</p> <p>① 理事</p> <p>② 使用人</p> <p>③ 当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団 体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、そ の代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者</p> <p>④ 次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方 公共団体の議会の議員を除く。）である者</p> <p>イ 国の機関</p> <p>ロ 地方公共団体</p> <p>ハ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行 政法人</p> <p>ニ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法 人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人</p> <p>ホ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独 立行政法人</p> <p>ヘ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって 設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15 号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人 （特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し 行政官庁の認可を要する法人をいう。）</p> <p>（評議員の任期）</p> <p>第18条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のう ち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。</p> <p>2. 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評 議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとす</p>	
--	---	--

<p>る。</p> <p>3. 評議員は、第16条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。</p> <p>(評議員の報酬等)</p> <p>第19条 評議員に対して、各年度の総額が2,000,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。</p> <p style="text-align: center;">第7章 評議員会</p> <p>(権限)</p> <p>第20条 評議員会は、次の事項について決議する。</p> <p>(1) 理事及び監事の選任又は解任</p> <p>(2) 司法機関（規律委員会、裁定委員会及び不服申立委員会）の委員長、副委員長及び委員の選任又は解任</p> <p>(3) 理事及び監事の報酬等の額</p> <p>(4) 評議員に対する報酬等の支給の基準</p> <p>(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認</p> <p>(6) 定款の変更</p> <p>(7) 残余財産の処分</p> <p>(8) 基本財産の処分又は除外の承認</p> <p>(9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款</p>	<p>る。</p> <p>3. 評議員は、第16条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。</p> <p>(評議員の報酬等)</p> <p>第19条 評議員に対して、各年度の総額が2,000,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。</p> <p style="text-align: center;">第7章 評議員会</p> <p>(権限)</p> <p>第20条 評議員会は、次の事項について決議する。</p> <p>(1) 理事及び監事の選任又は解任</p> <p>(2) 司法機関（規律委員会、裁定委員会及び不服申立委員会）の委員長、副委員長及び委員の選任又は解任</p> <p>(3) 理事及び監事の報酬等の額</p> <p>(4) 評議員に対する報酬等の支給の基準</p> <p>(5) 評議員の選任及び解任</p> <p>(6) 評議員候補者を評議員会に推薦できる団体（以下「評議員選出団体」という。）の認定及び取消し</p> <p>(7) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認</p> <p>(8) 定款の変更</p> <p>(9) 残余財産の処分</p> <p>(10) 基本財産の処分又は除外の承認</p> <p>(11) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款</p>	<p>評議員会の権限の追加</p>	<p>2015/3</p>
---	---	-------------------	---------------

で定められた事項	で定められた事項		
<p>(開催)</p> <p>第21条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。</p> <p>(招集)</p> <p>第22条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。</p> <p>2. 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。</p> <p>(決議)</p> <p>第23条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。</p> <p>2. 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。</p> <p>(1) 監事の解任</p> <p>(2) 評議員に対する報酬等の支給の基準</p> <p><u>(3) 定款の変更</u></p> <p><u>(4) 基本財産の処分又は除外の承認</u></p> <p><u>(5) その他法令で定められた事項</u></p> <p>3. 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監</p>	<p>(開催)</p> <p>第21条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。</p> <p>(招集)</p> <p>第22条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。</p> <p>2. 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。</p> <p>(決議)</p> <p>第23条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。</p> <p>2. 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。</p> <p>(1) 監事の解任</p> <p>(2) 評議員に対する報酬等の支給の基準</p> <p>(3) 評議員の選任及び解任</p> <p>(4) 評議員選出団体の認定及び取消し</p> <p><u>(5) 定款の変更</u></p> <p><u>(6) 基本財産の処分又は除外の承認</u></p> <p><u>(7) その他法令で定められた事項</u></p> <p>3. 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監</p>	<p>評議員会の決議事項の追加</p>	<p>2015/3</p>

事の候補者の合計数が第25条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第24条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2. 議長及び出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名以上が、前項の議事録に署名押印する。

第8章 役員

(役員の設定)

第25条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上30名以内
- (2) 監事 3名以内
2. 理事のうち1名を会長とする。また、会長を除き5名以内を副会長、1名を専務理事、若干名を常務理事とすることができる。
3. 前項の会長を「法人法」上の代表理事とする。
4. 第2項の副会長及び専務理事を「法人法」第91条第1項第2号の業務執行理事とする。
5. 第2項の常務理事のうち理事会の決議によって選定された若干名を「法人法」第91条第1項第2号の業務執行理事とすることができる。

事の候補者の合計数が第25条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第24条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2. 議長及び出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名以上が、前項の議事録に署名押印する。

第8章 役員

(役員の設定)

第25条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 23名
- (2) 監事 3名以内
2. 理事のうち1名を会長とする。また、会長を除き3名を副会長、1名を専務理事、3名を常務理事とする。
3. 第2項の会長を法人法上の代表理事とする。
4. 第2項の副会長及び専務理事を法人法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。
5. 第2項の常務理事のうち理事会の決議によって選定された若干名を法人法第91条第1項第2号の業務執行理事とすることができる。
6. 副会長のうちから予め定めた者1名を会長代行者とする。会長代行者は、会長が欠けた時又は会長に事故があるとき、会長を代行するものとする。

役員定数の
確定

2016/3

<p>(役員を選任)</p> <p>第26条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。</p> <p>2. 会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。</p> <p>(理事の職務及び権限)</p> <p>第27条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。</p> <p>2. 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。</p> <p>3. 会長、業務執行理事及び常務理事は、常務理事会を構成する。</p> <p>4. 会長及び業務執行理事は、3ヶ月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。</p> <p>(監事の職務及び権限)</p> <p>第28条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。</p> <p>2. 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。</p> <p>(役員任期)</p> <p>第29条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。</p>	<p>(役員を選任)</p> <p>第26条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。</p> <p>2. 会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。</p> <p>(理事の職務及び権限)</p> <p>第27条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。</p> <p>2. 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。</p> <p>3. 会長、業務執行理事及び常務理事は、常務理事会を構成する。</p> <p>4. 会長及び業務執行理事は、3ヶ月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。</p> <p>(監事の職務及び権限)</p> <p>第28条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。</p> <p>2. 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。</p> <p>(役員任期)</p> <p>第29条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。</p>	<p>会長不在時の代行者の明確化</p>	<p>2016/3</p>
--	--	----------------------	---------------

<p>2. 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。</p> <p>3. 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。</p> <p>4. 理事又は監事は、第25条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。</p> <p>(役員解任)</p> <p>第30条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。</p> <p>(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。</p> <p>(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。</p> <p>(役員報酬等)</p> <p>第31条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。</p> <p>(取引制限)</p> <p>第32条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。</p> <p>(1) 自己又は第三者のためにするこの法人の事業の部類に属する取引</p>	<p>2. 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。</p> <p>3. 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。</p> <p>4. 理事又は監事は、第25条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。</p> <p>(役員解任)</p> <p>第30条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。</p> <p>(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。</p> <p>(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。</p> <p>(役員報酬等)</p> <p>第31条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。</p> <p>(取引制限)</p> <p>第32条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。</p> <p>(1) 自己又は第三者のためにするこの法人の事業の部類に属する取引</p>	
---	---	--

<p>(2) 自己又は第三者のためにするこの法人との取引 (3) この法人がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間におけるこの法人とその理事との利益が相反する取引</p> <p>2. 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。</p> <p>(責任の免除又は限定)</p> <p>第33条 この法人は、役員「の法人法」第198条において準用される第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。</p> <p>2. この法人は、外部役員との間で、前項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には賠償責任を限定する契約を、理事会の決議によって、締結することができる。ただし、その契約に基づく賠償責任の限度額は、金10万円以上で予め定めた額と法令の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする。</p> <p style="text-align: center;">第9章 名誉役員</p> <p>(名誉役員)</p> <p>第34条 この法人に名誉役員若干名を置くことができる。</p> <p>2. 名誉役員は、理事会の推薦に基づき、評議員会の決議を経て、会長が委嘱する。</p> <p>3. 名誉役員に関する規程は、理事会が定める。</p>	<p>(2) 自己又は第三者のためにするこの法人との取引 (3) この法人がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間におけるこの法人とその理事との利益が相反する取引</p> <p>2. 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。</p> <p>(責任の免除又は限定)</p> <p>第33条 この法人は、役員「の法人法」第198条において準用される第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。</p> <p>2. この法人は、外部役員との間で、前項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には賠償責任を限定する契約を、理事会の決議によって、締結することができる。ただし、その契約に基づく賠償責任の限度額は、金10万円以上で予め定めた額と法令の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする。</p> <p style="text-align: center;">第9章 名誉役員</p> <p>(名誉役員)</p> <p>第34条 この法人に名誉役員若干名を置くことができる。</p> <p>2. 名誉役員は、理事会の決議を経て、会長が委嘱する。</p> <p>3. 名誉役員に関する規程は、理事会が定める。</p>	
---	---	--

<p style="text-align: center;">第10章 理事会</p> <p>(権限)</p> <p>第35条 理事会は、次の職務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) この法人の業務執行の決定 (2) 理事の職務の執行の監督 (3) 会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定及び解職 (4) 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職 	<p style="text-align: center;">第10章 理事会</p> <p>(権限)</p> <p>第35条 理事会は、次の職務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) この法人の業務執行の決定 (2) 理事の職務の執行の監督 (3) 会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定及び解職 (4) 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職 (5) 会長不在時の会長代行者の選定及び解職 (6) 名誉役員を選定及び解職 (7) 事務総長の選任及び解任 	<p>名誉役員 の委嘱 手続き の変更</p> <p>2016/3</p>
	<p style="text-align: center;">(会長等の選定)</p> <p>第36条 理事会は、会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定において、評議員会の決議により会長、副会長、専務理事及び常務理事の候補者を選出し、理事会において当該候補者を選定する方法によることができる。</p>	<p>名誉役員、 会長代行 者の選定、 事務総長 の選任及 び解任を 追加</p> <p>2016/3</p>
<p>(招集)</p> <p>第36条 理事会は、会長が招集し、その議長となる。</p> <p>2. 会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名した理事が理事会を招集し、議長を務める。</p> <p>(決議)</p> <p>第37条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。</p> <p>2. 前項の規定にかかわらず、「法人法」第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。</p>	<p>(招集)</p> <p>第37条 理事会は、会長が招集し、その議長となる。</p> <p>2. 会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは、会長が予め指名した理事が理事会を招集し、議長を務める。</p> <p>(決議)</p> <p>第38条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。</p> <p>2. 前項の規定にかかわらず、法人法第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。</p>	<p>会長等の 選定を規 定</p> <p>2015/3</p>

<p>(議事録)</p> <p><u>第38条</u> 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。</p> <p>2. 出席した会長及び監事が、前項の議事録に署名押印する。</p> <p>(常務理事会)</p> <p><u>第39条</u> 理事会に付議すべき事項のうち、緊急の処理が求められる事項について審議する機関として、この法人に常務理事会を設置する。</p> <p>2. 前項の規定による常務理事会の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。</p> <p style="text-align: center;">第11章 司法機関</p> <p>(司法機関)</p> <p><u>第40条</u> この法人の諸規程に対する違反行為に対する懲罰を決定するため、以下の司法機関を設置する。</p> <p>(1) 規律委員会</p> <p>(2) 裁定委員会</p> <p>(3) 不服申立委員会</p> <p>2. 前項の規定による司法機関の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。</p> <p style="text-align: center;">第12章 専門委員会</p> <p>(専門委員会)</p> <p><u>第41条</u> この法人の事業遂行のため必要があるときは、理事会の決議に基づき、専門委員会を置くことができる。</p>	<p>(議事録)</p> <p><u>第39条</u> 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。</p> <p>2. 出席した会長及び監事が、前項の議事録に署名押印する。</p> <p>(常務理事会)</p> <p><u>第40条</u> 理事会に付議すべき事項のうち、緊急の処理が求められる事項について審議する機関として、この法人に常務理事会を設置する。</p> <p>2. 前項の規定による常務理事会の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。</p> <p style="text-align: center;">第11章 司法機関</p> <p>(司法機関)</p> <p><u>第41条</u> この法人の諸規程に対する違反行為に対する懲罰を決定するため、以下の司法機関を設置する。</p> <p>(1) 規律委員会</p> <p>(2) 裁定委員会</p> <p>(3) 不服申立委員会</p> <p>2. 前項の規定による司法機関の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。</p> <p style="text-align: center;">第12章 各種委員会</p> <p>(専門委員会)</p> <p><u>第42条</u> この法人の事業遂行のため必要があるときは、理事会の決議に基づき、各種委員会(常設委員会、専門委員会等)を置</p>		
--	--	--	--

<p>2. 前項の規定による<u>専門</u>委員会の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。</p> <p style="text-align: center;">第13章 事務局</p> <p>(事務局)</p> <p>第42条 この法人の事務を処理するために事務局を置く。</p> <p><u>2. 事務局長は、理事会の承認を得て、会長が任免する。</u></p> <p><u>3. 事務局に職員を置き、会長が任免する。</u></p> <p><u>4. 職員は有給とする。</u></p> <p style="text-align: center;">第14章 定款の変更及び解散</p> <p>(定款の変更)</p> <p>第43条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。</p> <p>2. 前項の規定は、この定款の第3条、第4条及び第17条についても適用する。</p>	<p>くことができる。</p> <p>2. 前項の規定による<u>各種</u>委員会の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。</p> <p style="text-align: center;">第13章 事務局</p> <p>(事務局)</p> <p>第43条 この法人の事務を処理するために事務局を置く。</p> <p>2. 事務局に職員を<u>置く</u>。</p> <p>3. 職員は有給とする。</p> <p style="text-align: center;">第14章 事務総長</p> <p>(事務総長)</p> <p>第44条 事務局の最高責任者として事務総長を置く。</p> <p><u>2. 事務総長は、会長の提案に基づき、理事会が選任及び解任する。</u></p> <p style="text-align: center;">第15章 定款の変更及び解散</p> <p>(定款の変更)</p> <p>第45条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。</p> <p>2. 前項の規定は、この定款の第3条、第4条及び第17条についても適用する。</p>	<p>専門委員会という語句の修正</p> <p>事務総長の章を新設</p>	<p>2016/3</p> <p>2016/3</p> <p>2016/3</p> <p>2016/3</p>
--	--	---------------------------------------	---

<p>(解散)</p> <p><u>第44条</u> この法人は、法令で定められた事由によって解散する。</p> <p>(公益認定の取消し等に伴う贈与)</p> <p><u>第45条</u> この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1ヶ月以内に、「認定法」第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。</p> <p>(残余財産の帰属)</p> <p><u>第46条</u> この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、「認定法」第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。</p> <p style="text-align: center;"><u>第15章</u> 公告の方法</p> <p>(公告の方法)</p> <p><u>第47条</u> この法人の公告は、電子公告により行う。</p> <p>2. 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。</p> <p>附 則</p> <p>1. この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関</p>	<p>(解散)</p> <p><u>第46条</u> この法人は、法令で定められた事由によって解散する。</p> <p>(公益認定の取消し等に伴う贈与)</p> <p><u>第47条</u> この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1ヶ月以内に、認定法第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。</p> <p>(残余財産の帰属)</p> <p><u>第48条</u> この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、認定法第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。</p> <p style="text-align: center;"><u>第16章</u> 公告の方法</p> <p>(公告の方法)</p> <p><u>第49条</u> この法人の公告は、電子公告により行う。</p> <p>2. 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。</p> <p>附 則</p> <p>1. この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関</p>		
--	--	--	--

<p>係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。</p> <p>2. 「整備法」第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第12条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。</p> <p>3. この法人の最初の代表理事は 小倉 純二 とする。</p> <p>4. この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。 田畑 博章、久保 雅喜、吉田 隆一、庄司 伸一、外山 純、岸 慎一、櫻岡 祐一、 木内 敏之、室井 和比古、牛久保 勇、横山 謙三、中臺 由紀夫、上野 二三一、 本木 幹雄、渡邊 玉彦、平林 正光、渡辺 滋、貫江 和夫、荒川 剛、永棹 稔、 高田 稔、越山 彰、桑名 聰、森 進一、松田 保、村山 義彰、山野 喜弘、 中桐 敏男、喜田 秀夫、中村 源和、池田 洋二、金築 弘、木村 孝行、白井 孝司、 天久 弘、山下 憲一、逢坂 利夫、兵頭 龍哉、秋森 学、井上 辰馬、浪瀬 隆一、 造酒 星市、北岡 長生、大場 俊二、櫻田 公一、長嶺 一夫、上地 義徳</p> <p>別表 基本財産（第11条関係）</p> <table border="1" data-bbox="188 1366 770 1414"> <tr> <td>財産種別</td> <td>場所・物量等</td> </tr> </table>	財産種別	場所・物量等	<p>係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。</p> <p>2. 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第13条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。</p> <p>3. この法人の最初の代表理事は 小倉 純二 とする。</p> <p>4. この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。 田畑 博章、久保 雅喜、吉田 隆一、庄司 伸一、外山 純、岸 慎一、櫻岡 祐一、 木内 敏之、室井 和比古、牛久保 勇、横山 謙三、中臺 由紀夫、上野 二三一、 本木 幹雄、渡邊 玉彦、平林 正光、渡辺 滋、貫江 和夫、荒川 剛、永棹 稔、 高田 稔、越山 彰、桑名 聰、森 進一、松田 保、村山 義彰、山野 喜弘、 中桐 敏男、喜田 秀夫、中村 源和、池田 洋二、金築 弘、木村 孝行、白井 孝司、 天久 弘、山下 憲一、逢坂 利夫、兵頭 龍哉、秋森 学、井上 辰馬、浪瀬 隆一、 造酒 星市、北岡 長生、大場 俊二、櫻田 公一、長嶺 一夫、上地 義徳</p> <p>別表 基本財産（第11条関係）</p> <table border="1" data-bbox="1093 1366 1675 1414"> <tr> <td>財産種別</td> <td>場所・物量等</td> </tr> </table>	財産種別	場所・物量等	
財産種別	場所・物量等					
財産種別	場所・物量等					

国債	利付国債 1,000,000,000 円	国債	利付国債 1,000,000,000 円		
[改正] 2012年6月24日 (2013年4月1日施行) 2014年3月29日		[改正] 2012年6月24日 (2013年4月1日施行) 2014年3月29日 2015年3月29日 (2016年3月 XX 日施行 ※定時評議員会の日※下記参照)			

※2015/3 とは、2015 年 3 月の定時評議員会、2016/3 とは 2016 年 3 月の定時評議員会を指すものとする。